

科目ナンバリング		U-LAS00 10001 LJ34							
授業科目名 <英訳>	哲学 I Philosophy I			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 貫井 隆				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(基礎)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水4		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、西洋哲学史上の代表的な哲学者の思想を概観する。その際に、歴史上の著名な哲学者が、どのような倫理的・道徳的主張を行ったかということ、彼らが世界をどのようなものとして捉えたかということと合わせて考える。これら二つのことは、西田幾多郎が『善の研究』の冒頭で述べるように、以下のように連関しているからである。「世界はこのようなもの、人生はこのようなものという哲学的世界観および人生観と、人間はかくせねばならぬ、かかるところに安心せねばならぬという道徳宗教の実践的要求とは密接の関係を持っている」。「われわれは何をなすべきか、どこに安心すべきかの問題を論じる前に、まず天地人生の真相はいかなるものであるか、真の实在とはいかなるものなるかを明らかにせねばならぬ」。</p> <p>哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。</p>									
【到達目標】									
西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなスケジュールで講義を行う予定である。  下記は各回で中心的に扱う哲学者であり、記載していない関連する哲学者についても扱う。</p> <p>第01回 イントロダクション 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについての説明</p> <p>第02回 古代ギリシアの哲学(1)：ソクラテス以前の哲学</p> <p>第03回 古代ギリシアの哲学(2)：ソクラテス、プラトン</p> <p>第04回 古代ギリシアの哲学(3)：アリストテレス</p> <p>第05回 キリスト教と哲学(1)：アウグスティヌス</p> <p>第06回 キリスト教と哲学(2)：トマス・アキナス</p> <p>第07回 近代の哲学(1)：デカルト、スピノザ、ライプニッツ</p> <p>第08回 近代の哲学(2)：ロック、バークリー、ヒューム</p> <p>第09回 ドイツ観念論の哲学(1)：カント</p>									
----- 哲学 I (2)へ続く -----									

## 哲学Ⅰ(2)

第10回 ドイツ観念論の哲学(2)：ヘーゲル

第11回 現代の哲学(1)：ニーチェ

第12回 現代の哲学(2)：ウィトゲンシュタイン

第13回 現代の哲学(3)：フッサール、ハイデガー

第14回 現代の哲学(4)：デリダ、ドゥルーズ

期末試験

第15回 期末試験のフィードバック

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

小テスト40%と期末試験60%で評価する。

### [教科書]

山本巍ほか『哲学 原典資料集』(東京大学出版会, 1993年)

伊藤邦武『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』(中公新書, 2012年)

### [参考書等]

(参考書)

Anthony Kenny 『A New History of Western Philosophy, vol. 1-4』(Oxford Univ Press, 2004)

熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』(岩波新書, 2006年)

熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』(岩波新書, 2006年)

納富信留, 檜垣立哉, 柏端達也(編)『よくわかる哲学・思想』(ミネルヴァ書房, 2019年)

千葉雅也『現代思想入門』(講談社, 2022年)

### [授業外学修(予習・復習)等]

【予習】については特に必要ないが、講義スケジュールは上に記したようなものなので、興味があれば各学者の生涯や時代背景について調べておくとよい。

【復習】としては、配布物・ノートをしっかり見返し、講義で扱った著作などを適宜各自で読み、理解を深めておくこと。

### [その他(オフィスアワー等)]

講義内容についての質問などは、講義前後の時間に直接教員まで。